

2020年度 有料道路コンセッションの取組状況について（概要版）

I. 事業報告

(1) 交通量（7,010万台 [2019] → 5,624万台 [2020]）

- 8路線全体の交通量は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、全路線で前年度より減少（2019年度比19.8% [2018年度比20.3%]）の減少
- 特に空港アクセスを担う知多横断道路で42.8%減、中部国際空港連絡道路で55.4%減と著しく減少

(2) 料金収入（17,448百万円 [2019] → 13,924百万円 [2020]）

- 8路線全体の料金収入は、交通量の減少に伴い、全路線で前年度より減少（2019年度比20.2% [2018年度比20.3%]）の減少
- 特に空港アクセスを担う知多横断道路で46.6%減、中部国際空港連絡道路で55.9%減と著しく減少

(3) 収支状況

- 計画上の収支構造として、運営権対価分割金を元利均等払いとしている点も踏まえ、安定的な経営に向け、事業前半で収益をあげる想定
- 2020年度の収支実績
 - ・愛知県道路公社（以下「公社」）の償還準備金繰入は26.3億円
 - ・愛知道路コンセッション(株)（以下「ARC」）は当期純利益2.9億円を計上

【評価】

- ・2020年度ARCの収支は、料金収入の減少に伴い、売上高は計画値の76.7%となったが、売上原価は計画値の69.6%となり、当期純利益は、計画値を充足
- ・公社が支払う需要変動調整額の受け入れ、生産高比例法による交通量に応じた減価償却が減少したことが売上原価の主な減少要因（交通管理・料金収受・維持・点検修繕等の維持管理運営業務や附帯事業・改築事業は要求水準を維持）
- ・公社の償還準備金繰入は、計画を上回る実績となっており、順調に償還を実施

II. 主な取組内容

(1) 通常時や災害時における維持管理・運営業務

- 公社運営時と同様の管理水準、サービス水準を確保
- 不測の事態に対しても、公社と連携し適切に対応
- ARCが認証取得したISO55001アセットマネジメントシステムに基づく愛知有料道路インフラマネジメントシステムにより、重要管理指標（KPI）の目標値を掲げることで、道路運営の「見える化」を図るとともに、事業目的達成のためPDCAサイクルによる継続的な見直しを通じて、より安全・安心な道路運営及び利用者サービスの向上を実現

(2) モニタリング実施による要求水準の確保

- 公社が要求する水準（要求水準書）の達成状況等を確認するため、ARCがセルフモニタリングを実施
- 会議体や中立的な立場の第三者委員会による確認
- 公社からの是正指示に対し、迅速に対応



【評価】

- ・業務全体が要求する水準を充足しており、年間を通じて適切な事業運営を確認
- ・維持管理・運営業務における不適切な作業方法等全3件について行った是正指示に対し、ARCの是正対応状況を確認



【新技術の実証実験（愛知アクセラレートフィールド®）】



【季刊誌の発行】

(3) 民間の創意工夫による取組

- ISO 55001 認証維持及び範囲の拡大（導入2年後のサーベイランス審査）
- 電子帳票ソリューション「i-Reporter」の導入運用
- 新技術の実証実験（愛知アクセラレートフィールド®）
- 1日乗り放題チケットを発売し利用促進
- 地元企業・団体等と連携した地域産品PRイベントの実施（観光PRイベント計2回）
- インターペット愛知2020に出展
- 半田工科（旧工業）高校の作品展
- インスタグラムでフォトコンテストを実施
- 地域コラボ商品の開発
- 季刊誌「#おいしゅうございま知多」の発行（年2回）

【評価】

- ・新技術導入に必要なフィールド検証を行う仕組み「愛知アクセラレートフィールド®」を活用し、新技術の実証実験を行うとともに、Aichi Sky Expoにおいて、「活動報告展示会2020」を開催する等、活動成果を広く一般にも発信
- ・1日乗り放題チケットの利用者アンケートを実施し現状把握に努め、今後の利用促進及び利用者サービスに向けた取組みを、着実に展開
- ・地域産品PRイベントを積極的に実施し地域交流を深め、地域の活性化へ向けた取組みを実施
- ・地元食材を使ったメニューやお土産品など、利用者サービスの向上や地域の活性化に向けた魅力ある取組みを実施
- ・季刊誌の発行、テレビ、新聞、雑誌、外部催事への参加、インスタグラムなど、多様な広報活動を展開



【1日乗り放題チケットチラシ】



【インターペット愛知2020 出店状況】



【ちた食堂（地元食材の活用）】



【PRイベント】